

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」

令和5年6月23日

学級講話資料

今からちょうど20年前、長崎市で4歳の幼い子どもの命が12歳の中学生に奪われるという信じることができない悲しい事件が起こりました。

2003.7.1 長崎男児誘拐殺人事件

その翌年、佐世保市で小学6年生の命が同級生に奪われるという信じることができない悲しい事件が起こりました。

2004.6.1 佐世保小6女児同級生殺害事件

2年続いて信じられない事件が起こったのです。

「なぜ、このようなことが起こってしまったのか」
…みんなそのことを必死になって考えましたが、
はっきりとした答えは見つかりませんでした。

「このようなことが2度と起きないようにするには、
どうすればいいのか」。

大人も子供も一生懸命に考えました。

何とかしなければ…手探りのような状態でした。

「子どもを守るネットワーク」など様々な組織がつくられ、その取組(「100人パトロール」)などが県下の至る所で行われました。

「子どもたちのことをもっとよく見よう」、

「子どものことを見守ろう」、

「子どもの心をしっかりと見つめよう」、

「地域の子どもは地域で守ろう」

という思いが広がり、

長崎県では「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が設けられました。

おうちの人や地域の人にたくさん学校に来てもらって、子どもたちの様子を見てもらい、応援してもらおう週間です。

平成16年から県下すべての公立学校で取り組まれています。

「長崎っ子、福田っ子の心を見つめる教育週間」の「心」について、私は見つめる目を持つことが大事だと思います。

人の心は目には見えないものです。だから、心の

目で見るとしかないと、つまり、心で感じる
ことが大事だと思ひます。自分の心も自分の心で感
じるしかないと、思ひます。

人は「いい心」と「悪い心」持っています。

「いい心」は家族や友だち、まわりの人をいい気
持ちにさせます。

反対に「悪い心」は家族や友だち、まわりの人を
傷つけ、悲しい気持ちにさせます。

みなさんは、どちらの「心」が好きですか？

もちろん、だれもが「いい心」が好きだと思ひます。

でも、「悪い心」が「いい心」に勝ってしまうこ
とがあるようです。大人の校長先生できえも「悪い
心」が「いい心」に勝ってしまつて、人を傷つける
言葉を言つてしまつて、深く後悔したことがあります。
みなさんはどうですか？

ストレスが溜まつて、友達を傷つける言葉をつい
言つてしまうことはありますか？

思つてもいないことを言つて、家族や周りの人を
悲しい思いにさせたことはありますか。

とても残念なのですが、福田中学校でも「きもっ」

「うざっ」「バカじゃ」などと、とんでもない言葉をつい口に出してしまったという人がいるんです。言葉遣いについても、不愉快な言動で友達や周りの人を傷つけてしまったという人がいるのです。言われた人も言った人も悲しい思いをしていると思います。

これは「悪い心」が「いい心」に勝ってしまっているのです。悔しいですね。

私たちの毎日は「いい心」と「悪い心」が勝ったり負けたりを繰り返すのかもかもしれません。

「いい心」が「悪い心」に勝る生活、つまり、「いい心」が「悪い心」をコントロールできる生活を送っていききたいですね。そうすれば、みんなが笑顔になり、「いのちを輝かせて生きる心豊かな福田っ子」としてみんなが自分に自信が持てるようになると思います。

来週から始まる福田中学校の教育週間、
いのちを大切にする「いい心」
笑顔のあいさつ、思いやりのある「いい心」
感謝の気持ち、ありがとうがいっぱいの「いい心」
を全校のみんなですっかりと考えたり、道徳の時間
など学級で話し合ったりしていきたいと思います。
また、一回り成長した姿を楽しみにしています。

2014.7.26 佐世保女子高生（高1同級生）殺害事件
「心を見つめる教育週間」が始まって、11年目、
高校1年生の命が同級生に奪われるという信じること
ができない悲しい事件が起ってしまいました。

これまでの取組に、少しずつではあるが成果を感じ
ていた長崎県民にとっては大変辛く、衝撃的な事
件でした。そこで、再度これまでの取組を振り返り
「生命尊重」「命の大切さ」の原点に立ち、県下
すべての公立学校で教育活動を公開する教育週間が
行うことで、学校と保護者や地域社会が連携し、
「地域の子どもは地域ではぐくむ」の気運を高め、
大きな成果を上げているのです。